

# 2000. 2. 霊性センターニュース 141号



『共同体創りの条件』（2）

霊性センターカルメル

断想（145）

ヘンリーナーウエン「旅路の糧」（19）

みことばのひびき

大聖年にあたって（1）

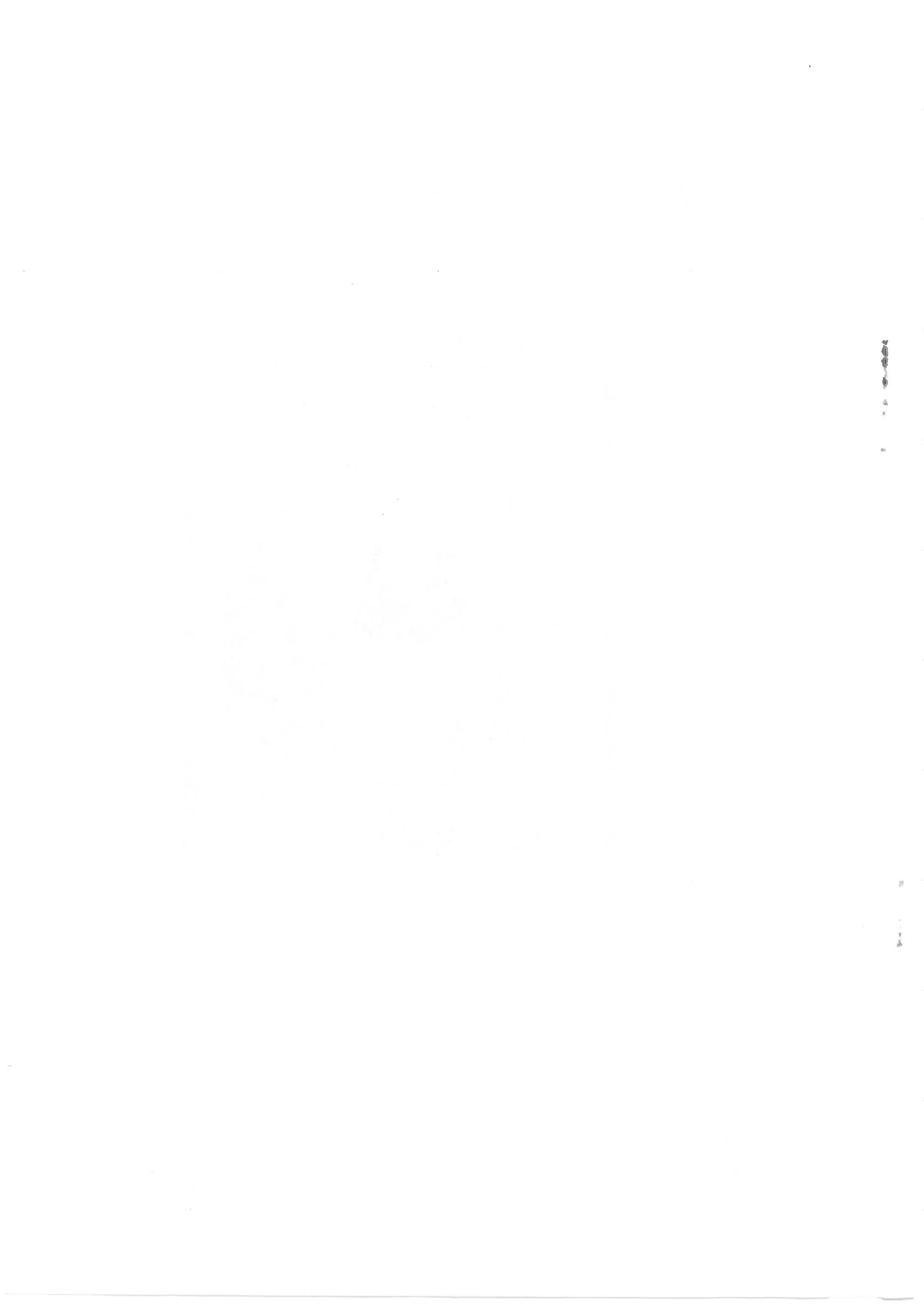
詩

フォコラーレニュースより

諸所の企画についてのご紹介

お願い

〒774-3201 徳島県徳島市本郷御蔵山39-12  
守治聖テレジア修道院（黙想）  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457



## 『共同体作りの条件』（2）

### －共同体作りを妨げる力－

チプリアノ・ボンタッキョ

共同体作りを妨げる力はそれぞれの心にあるという事をこの前にお話ししましたが、この事について、もう少し詳しく述べる事にしたいと思います。

イエス様が行われた「人間の心の診断」の結果は、マルコ福音書に記されています。人を汚すものについての論争の時にイエス様はこの診断を行われたのです(7・14-23)。その結果を聞きましょう。

「人から出てくるものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から悪い思いが出てくるからである。淫らな思い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、妬み、悪口、傲慢、無分別等、これらの悪は皆中から出てきて、人を汚すのである」。

人間の心を見抜いておられるイエス様のこの診断の結果を謙虚に受け止める者になりたいと思います。私の心から出てくるこれらの「悪い思い」は兄弟・姉妹との係わりを脅かすものです。これらの思いに従ってしまうなら、共同体作りなんて望めないものです。

さて、ここで、これらの「悪い思い」がどのように共同体作りを妨げるかについて述べることにしましょう。

－「淫らな思い」：共同体のメンバーはお互いに一人間として認め合い、尊重し合うべきです。えこひいきをせず、お互いに礼儀を守るべきです。共同体の中の秩序を守り、男女の区別なく、皆同じ目標に向かって行くべきです。「貴方々の中には、最早ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由の身分もなく、男も女もありません」(ガラテア 3・28)。

－「盗み」：犠牲なしに、共同体の建設者にはなれないものです。助けたり助けられたり、共同体に代ったり代って貰ったりする事に共同体の命があると言えます。共同体に与えるべき時間、能力、エネルギーを惜しんで、世話のみをかける事は、共同体に対して「盗み」を働くような事ではないでしょうか。

－「殺意」：共同体の他のメンバーを避けたり、傷付けたり、心から締め出したり、そのニードに対して無関心でいたり、憎んだりする事は「殺意」が結ぶ実ではないでしょうか。

－「姦淫」：自分の共同体に与えるべき愛、奉仕、配慮、時間、能力、エネルギーを他の者に与えたりする事は、この罪の部類に入るのではないのでしょうか。

－「貪欲」：…“浅いつもりで、深いのは、欲の皮”と言われます。共同体に対した要求が多くて、共同体を自分の利益の為に利用しようとする事もあります。

－「悪意」：兄弟姉妹を疑ったり、その言葉と行動を悪いほうに取ったり、いわゆる「色眼鏡」で見たりする事もよくある事です。

－「詐欺」：お互いに腹を探りあったり、又、逆に相手の機嫌を取る為にお世辞を言ったり、何らかの狙いがある嘘をついたりごまかしたりする事も、この邪念から出てくるものです。

－「好色」：感情のレベルで好き嫌いが、なかなか避けられないかも知れませんが、一つの共同体の中で気の合う者同士でかたまったりする事は、共同体作りの大きな妨げになります。

－「妬み」：兄弟の良さを認めてそれを喜ぶ事が出来ないという事は、自分が取り残された思いがするからでしょうか。

－「悪口」：兄弟の弱さや欠点や失敗を話題の種にしたり、推測によって噂をたてたり、更に悪い事には、ざん言したりする事も共同体作りの大きな妨げになります。

－「高慢」：自分の欠点や失敗を素直に認めようとしなかったり、何時も自分を正当化したり、他の兄弟に注意したりする事は、高慢の心から出る態度ではないでしょうか。「深いつもりで浅いのは、知識」「低いつもりで高いのは、気位」と言われています。

－「無分別」：神が共同体に何を求めて居られるかを、祈りながら、識別しないで、事を決めたりするのも共同体作りを妨げる事になると思います。

以上、共同体作りを妨げるものとして、人の心から出てくる「悪い思い」を捕らえるようにしました。

1999. 12. 19.

(在俗者集会講話)

## 靈性センターカルメル

### 1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(3)名古屋（比野教会）

日時：5/27（土）～5/28（日）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL.0975-41-4012

(5)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を  
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子 〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22

「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上 注文されれば、20  
%引きになります。

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ.03-3322-7601

FAX.03-3325-5322

### 2. 聖書と念祷の集い

指導 星野神父（毎月1回）

日時：1月29日（土）3：30～

・場所：上野毛教会・信徒会館 26号室

・テキスト：神との親しさ(2)『祈りと対神徳』伊達カルメル会訳，聖母  
文庫 500円。上野毛教会売店にあります。

・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続  
しようとお思いになる方は連絡網に入っただければと思います。

連絡網に入っいらっしゃらない方は、土曜日の午前9時30分から11時30  
分の間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお  
出かけください。 TEL.03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡

・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの靈性センターニ  
ュースに掲載いたします。

- なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されます。
  - また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、
  - 私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
  - 主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
  - 希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。
- そして大都会の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

## 2000年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- |               |   |             |          |
|---------------|---|-------------|----------|
| • 6月15日（木）夕食  | ～ | 6月18日（日）昼食  | チプリアノ神父様 |
| • 8月24日（木）夕食  | ～ | 8月27日（日）昼食  | アロイジオ神父様 |
| • 9月14日（木）夕食  | ～ | 9月17日（日）昼食  | 星野 正道神父様 |
| • 10月 2日（月）夕食 | ～ | 10月 5日（木）昼食 | チプリアノ神父様 |
| • 11月16日（木）夕食 | ～ | 11月19日（日）昼食 | 福田 正範神父様 |

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL & FAX 045-562-2296（永瀬）

2000年 カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

## 黙想会年間スケジュール

### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 1日（木）4時から10日（土）朝食

(2) 10月20日（金）4時から29日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

### 2. 奉獻生活者のための黙想会

(1) 7月24日（月）4時から8月2日（水）朝食 福田正範師

(2) 8月11日（金）4時から20日（日）朝食 山田裕於師

(3) 12月26日（火）4時から翌年1月4日（木）朝食 福田正範師

### 3. 聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 4月15日から16日 奥村一郎師

(2) 7月 1日から 2日 //

(3) 9月30日から10月1日 //

(4) ~~11月20日から20日~~ // 変更 9月2日から3日

(5) 12月16日から17日 星野正道師

2001年

(6) 1月27日から28日 奥村一郎師

(7) 3月31日から 4月1日 星野正道師

### 4. ウェンズデイ・リトリート スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月17日（水）10時から16時

(2) 6月14日（水） //

(3) 7月 5日（水） //

(4) 10月11日（水） //

(5) 11月 1日（水） //

5. ウィークエンド・リトリート 新井延和師 (カルメル会)

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

(1) 4月28日(金) 20時から30日(日) 15時 「復活」

(2) 10月13日(金) // 15日(日) // 「アビラの聖テレジア」

6. 特別企画黙想会：いつでも通い可

(1) 5月9日(火) 夕食から11日(木) 昼食 アロイジオ師

(2) 12月1日(金) 夕食から 3日(日) 昼食 チプリアノ師

(3) 2001年1月16日(火) 夕食から18日(木) 昼食 奥村一郎師

7. 大祭日のミサにあずかるために：チェックイン 午後3時から

(講話なし) チェックアウト午前10時まで

(1) 復活祭 4月22日(土) 夕食なし～23日(日) 朝食

(2) クリスマス 12月24日(日) 夕食なし～25日(月) 朝食

以上、1.から7.までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

8. 青年黙想会 (35歳までの男女) スタッフ：カルメル会士

(1) 5月13日(土) 16時から14日(日) 16時

希望者には5月12日(金) 20時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

(2) 11月3日(祭・金) 12時、昼食から 5日(日) 16時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAXで下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

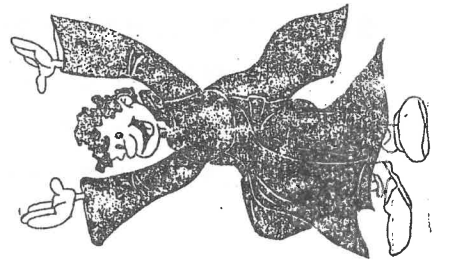
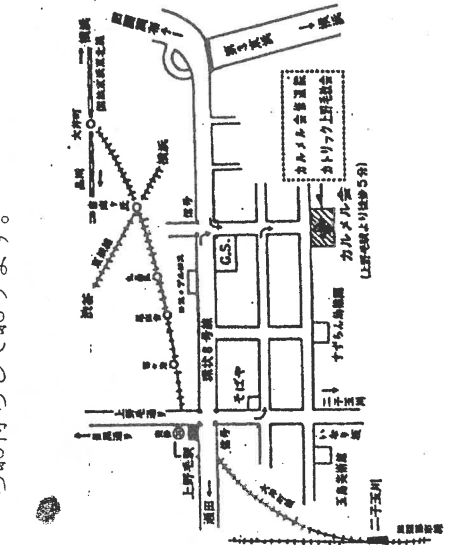


# T. T. クラブ

～10代・20代の  
青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、教会の中のいろいろな話題を使って、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心置き、その中でお互いの神様からの響きを感じ取り、よりよき人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。

ぜひ、参加してみてください。わたしたどもスタッフは心からお待ちしております。



- 第32回 1月15日 (土) 「生活と祈り」
- 第33回 1月29日 (土) 「私たちと大聖年」
- 第34回 2月12日 (土) 「神の国」
- 第35回 2月26日 (土) 「私たちと教会」

- \*時間 いずれも P.M.7:00 から P.M.9:00 まで
- \*対象 10代・20代の青年たち
- \*スタッフ カルメル会士
- \*場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F
- \*プログラム
  - 7:00~7:20 はじめの集い
  - みんなで讃美歌を歌う etc.
  - 7:20~8:20 話題の解説及び分かち合い
  - 話題の説明、分かち合いを通して神の響きを確認する。
  - 8:30~8:50 祈りの時間
  - 分かち合えたことを感謝し、祈る。
  - 9:00 解散

**カルメル修道会**  
**T. T. クラブ 係**  
 〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
 Tel. 03 (3704) 2171

# 修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 15

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないかと、思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないかと、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

\*日時 3月20日(月・祝日) 10:00 ~ 16:00、昼食は各自お持ちください。

\*対象 30才くらいまでの独身男女青年

\*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

\*費用 1000円

\*内容 ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

\*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

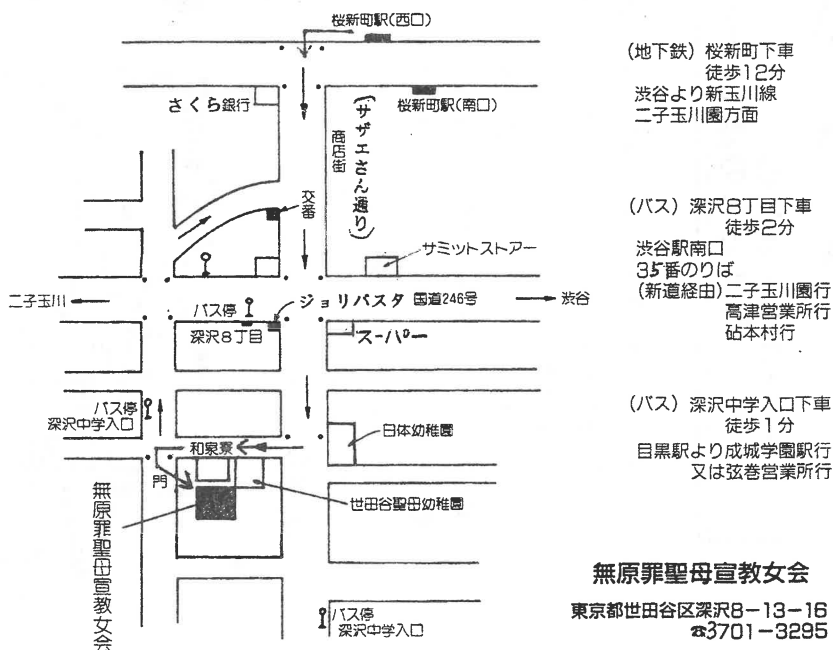
\*連絡先 158 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会

星野正道神父 TEL03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

\*会場 無原罪聖母宣教女会修道院 158 世田谷区深沢8の13の16

東急新玉川線桜新町下車

TEL03-3701-3295



## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』⑱

### 私たちの霊的両親

喜びと悲しみは、決して切り離すことができません。私たちがすばらしい光景を見て心に喜びを覚えるとき、それ見ることのできない友のことを思い出します。私たちが悲しみに打ちのめされるとき、真の友情とは何であるかを発見するのです。悲しみを是が非でも避けようとするならば、喜びを味わうことは決してないでしょうし、本当の喜びに懐疑的であるならば、本当の苦しみをすることも決してないでしょう。喜びと悲しみ、それは私たちが霊的に成長するための両親なのです。

(0102)

### 霊的選択

選択。選択は、相違を生みます。二人の人が同じ事故に遭い、重症となります。彼らは、事故に遭うことを選択しませんでした。それは、突然彼らを襲ったのです。けれどもそのうちの一人は、その体験を呪いつつ生きることを選び、他の一人は、感謝のうちに生きることを選びました。その選択は、彼らの人生と、彼らの家族や友人の人生に、根本的な影響を与えます。人生において起きることを、私たちはほんのわずかしかコントロールできません。しかし、起きたことをいかに自分の心のうちに統合し、思い出すかということについては、たくさんのかをコントロールできるのです。この霊的選択こそ、まさに私たちが自分の人生を、尊厳をもって生きるか否かを決定するのです。

(0106)

### 予期せぬ出来事を予期すること

毎日、予期せぬ出来事が起こります。けれどもそれを予期するときのみ、それが襲ったとき、私たちはそれを見、聞き、感じることはできるのです。毎日の予期せぬ出来事を受け入れることを恐れてはなりません。それが悲しみを引き起こすものであれ、喜びを引き起こすものであれ。それらは、私たちの心の中に新しい空間を開きます。新しい空間。そこで私たちは新しい友を受け入れ、私たちが共有している人間性を、より完全に賛美することができるのです。

(0101)

## 年間第5主日

「すべての人に対してすべてのものとなる」(Iコリント9:22)

パウロは、ユダヤ人に対してはユダヤ人のようになり、律法の下にある人に対しては律法の下にある者のように、律法と無関係な人々に対しては律法に無関係な者のようになり、良心の病んでいる人に対しては良心の病んでいる者のようになったと言います。これは自分を偽ったり、演技したりしたという意味ではないでしょう。そうだとしたらとても人の信頼を勝ち得ることはできません。むしろ自分の中にある要素を深め、積極的に共感を示したのだと思います。パウロはそれだけ解放されていたと言うことでしょう。

私はかつてこの御言葉の意味を泰然自若としていて動揺しないことかと考えていました。そう言う例を見たからです。私が一時期仕えた仏教の師匠がそれでした。師匠は、1万円の御布施でも数千万円の御布施でもまったく同じように感謝して受け取っていました。また最高級のホテルに泊まってもあばら屋に泊まっても同じように満足しているように見えました。私と来たら、師匠のお供をして某国の最高級ホテルのスイートルームに泊まったときは、VIPはこういうところに泊まるのかと興奮したものです。すべての人に対してすべての者となると言うのは、金持ちに対しても貧乏人に対しても同じように対すると言うことで、この師匠のような態度を言うのだろうと思いました。

しかしよく考えてみると、師匠の態度は立派ですが、パウロに代表される福音的な生き方とはずいぶん違うということに遅まきながら気づきました。パウロの生き方はもちろんキリストの生き方を手本としていて、神の御言葉が人となったへりくだりが大前提にあります。相手の低さにまで下り、相手の喜びを喜びとし、悲しみを悲しみとする連帯・共感があります。それに対して、師匠の態度は人格の大きさ、毅然たる態度、何ものにも影響されない精神の孤高を志向するものです。どちらも立派と言えますが、モデルが一方では十字架につけられたキリストであるのに対し、他方は多くの弟子に崇められつつ亡くなった釈迦であるという違いがあります。誰を模範とするかです。ずいぶん違ってきます。模範にする人を間違わないようにしたいものです。

年間第6主日

「よろしい清くなれ」

イエスの時代、皮膚病を病む人たちは汚れたものとして差別されていました。イエスに近づくだけでも大変だったことでしょう。人に知られれば石を投げつけられる恐れがありました。こういうかわいそうな人たちにイエスは「私は望む。清くなれ。」と仰ったのです。すると確かに癒されました。

現代の日本でもこれと似た奇跡が起きています。体に入墨をいれた元ヤクザの人たちが何人もイエス・キリストを受け入れ、主にしたがって生きるようになってきているのです。中には牧師になった人もいます。ミッション・バラバという名前で活動しています。テレビや新聞でご覧になった方も少なくないと思います。

ヤクザもある意味で汚れたものとして差別されています。プロテスタントの教会で祈らせてほしいと言って断って入ったのに、夏なので暑くて上着を脱ぎ入墨が見えるようになると牧師は恐くなり、警察を呼んでしまったそうです。銭湯に入り裸になるとまわりの視線が集まってしまいます。こういうことは彼らが改心してからも起きることで、割合簡単に乗り越えられるものですが、問題は何よりも彼ら自身心に深い傷を負っていたことです。ある人は「私は体を汚しています」と言って決して人前で裸にならなかったそうです。詰めた指をシリコンの義指で隠していた人もいます。ヤクザという言い方自体、おいちょかぶでは8と9と3を合計すると20になり、ぶた（何の役にも立たないもの）であると言う自嘲の表現なのです。あるメンバーは教会に通うようになっても、まわりの人たちが余りに清く輝いてみえ、自分のような人間にはふさわしくない場所だと思えて仕方なかったそうです。そこの牧師が立派な人で、神は罪人を救うためにこの世に来られたと言って彼を得心させました。

彼らは皆キリストによって清くされました。しかも深く、心の最も深いところから清くされました。それは彼らが誰よりも強く、神に飢え渴いていたからです。「心の貧しい人は幸いである」とは、彼らのように神以外頼るものが残されていない人のことを言うのでしょうか。神から清くされた彼らは本当に幸いな人たちです。しかし彼らのような飢え渴きを本当は私たちも心のどこかに隠し持っているはずです。

年間第7主日

「その人たちの信仰を見て」

(マルコ2:5)

4人の男が中風の人を運んで来ました。あまりに人が多くてイエスに近づけないので、屋根を剥がして穴を空け、病人の寝ている床を吊り下ろしました。イエスは中風の人に「あなたの罪はゆるされる」と言うのですが、その前に「その人たちの信仰を見て」という注目すべきことが書かれています。これはマタイ、マルコ、ルカいづれにもあります。

人は神から責められるとき、自分の罪によって責められます。かつては先祖の罪ゆえに子孫がその責任を問われると考える人もいたのですが、預言者エレミヤとエゼキエルがこの考え方を否定して、「人は自分の罪のゆえに死ぬ」(エレミヤ31:30)と個人の責任を明確にしました。罪を犯したその人が責任を問われるのであって、その人が罪を犯すに至った原因が他の人のせいでない限り、当人だけが責任を問われます。

しかし救いの場合果たして同じなのでしょう。人は自分の信仰のゆえに救われるとだけ言えるのでしょうか。神は人々を個別的に、まったく相互の連絡なしに聖化し、救うではありません。神は救いの計画にあたりまず御自分の民を作るところからお始めになりました。だから救いには共同体性があるのです。

イエスが中風の人を許したのは、病人本人だけでなく、病人を運ぶ人たちの信仰を見たからです。ここに私たちが他の人の救いのために働けるという大きな希望があります。神は私たちが他の人の救いのために働くことを望んでいらっしゃる。

生きている人のためなら、この人たちのように何かの役に立つ活動をしたり、あるいは説得したり、とにかくいろいろなことができます。しかし死んでいる人の永遠の喜びのためにも貢献することができます。祈るだけでなく、免償を代願の形で議することもできます。大聖年の今年は特にたくさんできます。プロテスタントの牧師の中には死者のために祈るのは間違っていると主張する人がいるそうです。こういうことを聞くと悲しくなります。神は生きている者も死んでいる者も共に救おうと望んでおられるのです。私個人の信仰だけでなく、私たちの信仰を御覧になるからです。

## 年間第8主日

「私はイスラエルを荒野に導き、その心に語りかけよう」(ホセア2:16)

この御言葉は私が昨年4月まで1年近くを過ごしたイタリアの隠遁修道院の標語のようなものです。修道院を写した絵葉書にこの言葉が書かれています。

この修道院は砂漠と呼ばれます。トスカーナの緑豊かな山の中にあるのになぜ砂漠なのかと最初に訪れたときは思いました。しかし暮らし始めるとまもなく納得しました。ここには修道生活に伴う、誰にでも許される普通の楽しみがありません。すなわち修友との語り(会話を楽しめるのは週に1回のレクリエーションの時だけです)、人との出会い、仕事の充実感、人をキリストに導く喜び、また新しい土地を訪れたり、見聞を広めたりすることもなく、テレビも世俗の新聞もオーディオ器具もありません。数千冊の本はありますが、私のイタリア語力ではとても楽しんで読めません。これほど楽しみを少なくしたらこの先は死しかないではないかと思ったものです。会の中で極北の地に来たのだと感じました。

しばらくすると重苦しい気持ちが去り、とても潜心しているのがわかるようになります。何かをするときその一つのことだけに集中できます。普段の生活がいかにか雑音の多いものであるか、そしていかにたくさんのかを思い煩って生きてきたのかを痛感しました。

せっかく隠遁生活のチャンスをもたらしたのだから、頭に思い浮かぶことをせつせと書き留めておこうと思い、黙想ノートを何冊か書きました。自分の中で御言葉が有機的につながるようになり、帰国してから説教が以前より楽にできるようになりました。しかしこれは言わば副産物に過ぎず、一番大きな御恵みは自分の肉の中に善いものは何一つないと言うことが納得できたことです。頭ではわかっていましたが、体で悟られました。浄化などと言えるかっこいいものではありません。あるがままの自分を受け入れる(謙遜とは真理を生きること)のは神に迫られないとできないのかも知れませんが、少なくとも私には無理です。神の言葉は生きていて力があり、心の思いや考えを見分けることができる(ヘブライ4:12)というのは本当です。

なんらかの形で日常生活を離れ、「荒野」の中に身を置くのは世俗に生きる方にとって大変なことでしょうがやってみる価値は十分あります。

## ～ 大聖年にあたって (1) ～

カルメル会 嶋崎 浩樹神父

昨年のクリスマス、12月25日から来年の1月6日（主の公現）まで、カトリック教会は、大聖年と決めました。聖年は、25年に一度ありますが、2000年という大きな節目である今年は、特に大聖年といわれます。そこで、大聖年には、何をすればよいのかということ、見てみたいと思います。

### 1. 大聖年とは？(1)

まず、大聖年とは何かと言うこととお話ししてみたいと思います。

聖年の歴史を遡ると今からちょうど700年前の1300年の聖年が最初になります。

時の教皇ボニファチウス八世によって行われました。当初の目的は、今で言う聖年とはほど遠く、教皇庁の財政を立て直すための資金集めが目的だったようです。ですから、1300年の聖年の時も巡礼団を百万人ローマに集めることを目標としていました。巡礼すれば自然と教会への献金は、増えるからです。また、巡礼への特典として、免償(2)が与えられました。人々は、聖ペトロへの墓参りと免償を求めて続々とローマにやってきたのでした。

その後聖年は、いろいろな変遷をたどりますが、今は二十五年に一度聖年が祝われています。前は1975年(3)でした。そして、今度は、千年の節目ということで、大聖年と呼ばれているのです。

では、大聖年とはどのような意味があるのかを見てみたいと思います。まずは、旧約聖書における「ヨベルの年」を思い出させます。ヨベルの年とは、七年に一度畑を休ませたり、奴隷を解放したり、また一定の規則に従って負債をすべて帳消しにする規定である安息の年を七回繰り返した次の年の五十年に一度の年です。ヨベルの年には、安息の年の慣行はさらに拡大され、より荘厳に祝われました。(レビ記 25. 1-28 参照)

レビ記にもありますが、このヨベルの年に起きる最も重要な出来事の一つは、もし土地を手放したり、奴隷となって土地を失っていた場合、すべてのイスラエル人は、先祖伝来の土地を返してもらえたのです。つまり、当時は、財産のあるなしが神様の祝福と考えられていましたので、土地を失った人たちが再びもとの状態に戻ると言うことは、全面的な「解放」が与えられるということなのです。土地というものは、神様から貸し与えられたものなので、人が土地を完全に奪われてしまうことはあり得ない

---

(1) 教皇ヨハネ・パウロ二世 使徒的書簡「紀元2000年の到来」12、13 参照

(2) 教科書などでは、「免罪符」と呼ばれているものです。でも罪が免除されるのではなく、あくまでも罪が赦された後の償いが免除されるというものです。

(3) ただし、特別な聖年は、この周期に関係なく行われます。たとえば、キリストの死後1950年記念の年である1983年は聖年でしたし、1986年から1987年にかけては、聖母マリアの年とされました。



ことです。また、神様は、イスラエルの民をエジプトでの奴隷状態から解放されたので、イスラエルの民が永久に奴隷の身分にとどまることもあり得ませんでした。

しかし、このヨベルの年の規定というのは、現実にあったと言うよりは、希望であって、大部分は理想にしかすぎませんでした。しかし、キリスト様の到来によって、この規定は現実のものとなっていきました。なぜなら、キリスト様は、わたしたちを束縛しているものから解放させるためにこの世に来られたからです。ヨベルの年にそれまでのすべての負債を免除すると言うことは、みんな平等になるということであり、富んでいる者が弱い人、貧しい人また困っている人に対して救済の手を差し伸べると言うことになるからです。

また、自分が貯めた財産をもとの状態にするということは、財産というのはイスラエルの民の共有財産であり、かつ神様から管理を委託されたものであるといえます。ですから、この世にある被造物は、すべて神様のものであり、わたしたち人間はそれを利用し、管理を任せられているにすぎないのです。

このことを考えていくなれば、大聖年とは何か？何をなすべきものかと言うことが浮かび上がってくるのではないかと思います。聖年は、罪の赦しと償いの免除の年、互いに争っている人たちの和解の年、秘跡であるかないかは別にして回心の年なのです。でも特に今年の大聖年は、キリスト様生誕二千年を祝う特別な年です。特別なお恵みのある年です。すべての人が回心して互いに赦しあい、受け入れあうこと、それは、自分自身に対しても言えることです。自分自身を赦し、受け入れていなければ他人を赦し受け入れていくことはできません。それゆえに、大聖年は、まず自分自身が回心して神様のもとに戻ることが先決となります。もし、多くの人々が真の回心へと導かれて行くなれば、この世の中には、本当の平和が訪れることでしょう。この機会にもう一度自分自身を見つめてみましょう。

さて、わたしたちは、大聖年を迎えるにあたって、1997年には御子、1998年は、聖霊、昨年は御父を黙想して準備を行ってきました。そして、大聖年は、三位一体の神を黙想しますがここで、もう一度、御子、聖霊、御父について黙想してみることしましょう。

## 2. 御子とは？

御子は、どのように呼ばれているのでしょうか？まず、救い主という意味であるキリストでしょう。またイエスという人間としての名前があります。他にも仲介者、贖い主、大祭司など、いくつもあります。これらは、すべて、御子を言い表すための呼び名で、どれも御子とは何者なのかを言い表しているものです。でももっとも端的に御子のことを表しているのは、パウロの次の言葉ではないでしょうか？

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌

が、「イエス・キリストは主である」を公に宣べて、父である神をたたえるのです。」(フィリピ 2.6 - 11)

では、このパウロの言葉を心にとどめながら、御子とは何者なのかということを実の人間としての側面と真の神としての側面の両面から見てみたいと思います。

### 1) 真の人間であるイエス・キリスト

イエス・キリスト様は、真の人間でした。わたしたちと同じように、人間の母親であるマリア様のおなかを痛めて生まれてきたのです。そして、福音書には、人間として活躍をなさったイエス様の場面が数多く記されています。その中でも注目されるのは、わたしたち人間に仕える姿ではないでしょうか？ヨハネ福音書には、イエス様が弟子たちの足を洗う場面が出てきます(ヨハネ 13.3 - 15 参照)。当時足を洗うのは、僕や奴隷の仕事でした。つまり、社会的地位が低い人の仕事だったのです。本来ならば、イエス様は、ご自分が弟子たちから足を洗ってもらはずなのに自らが行ったのです。このことは、わたしたちに大きな示唆を与えてくれるものです。わたしたちは、人から足を洗ってほしいけれども、自分から他人の足を洗おうとはなかなかしません。しかし、イエス様は、足を洗うことを弟子たちに命じました。ということは、わたしたちもイエス様と同じように互いに足を洗い合わなければならないのです。

他にもイエス様が、炭火をおこし魚を焼き、パンを用意した話がヨハネ福音書の二十一章に出てきます。このように、イエス様は、人から何かをしてもらうことを望んでおられてのではなく、ご自分から率先して、ある人には、食べ物、ある人にはお金、ある人には健康を与え続けていったのです。このようなことは、何もイエス様がやらなくても他にもできる人はたくさんいますし、また弟子たちに命じられればやってもらえることなのです。でもご自分からすすんで行うということは、謙遜以外の何ものでもありません。この謙遜は、御父への従順から出てくるものです。たとえば、十字架への歩みなどはその際たるものであるといえるでしょう。十字架から逃れようと思えば逃れることはできました。でもイエス様は逃れることはせず、自らすすんで十字架への道を歩んでいきました。これも御父のご意志を果たそうという気持ちから出てきたもので、謙遜の心から行った偉大な愛の行いなのです。わたしたちが見習わなければならないのは、この真の人間であるイエス様の姿です。イエス様が行ったことは、イエス様しかできないものではなく、わたしたち人間一人一人が行うことのできるものです。ですから、わたしたち一人一人が福音書をもう一度読み返して、イエス様とはどのようなお方なのかということを実認識して、わたしたちの信仰生活に生かしていきたいものです。

### 2) 真の神であるイエス・キリスト

イエス様は、この世に来られたときに人間としての使命を果たすためにだけ来たものではありません。神様としての、重大な使命を帯びて御父から派遣されてきたのです。イエス様のこの世での神様としての使命は、「神の国」の到来を告げることと、わたしたち人間と神様との和解を果たし、罪の闇を打ち破るというものでした。

## ①「神の国」の到来

イエス様は、「神の国」の到来を宣べ伝えるためにこの世に来られました。「神の国」とは、人が死んでいく天国のことだけを指すのでもなければ、この地上のどこかの国のことを指すのでもありません。ましてや、空にあるものでもありません。「神の国」とは、神様が支配なさる世界のことです。言い換えるならば、神様が人々の心の隅々にまで、また社会の隅々にまで、真に神様として認められ、あらゆる価値の基準とされることです。そして、それを通して正義と平和の秩序がこの世に実現されるということです(1)。では、具体的に「神の国」とはどんなものなのでしょう？聖書では、次のように言っています。食べるものに困って飢えたり、のどが渴いでいたり、また満足に服を着ることができないような経済的に貧しい人に対して、一個のおむすびを与えたり、コップ一杯の水を与えたり、持っている服の中から良さそうなものを選んで与えたりすることです。また、誰か病気の人、寝たきりの人や、高齢者の方がいるならば、見舞いに行ったり、必要とあれば看護を手伝ったりすることがあるでしょう。(マタイ 25.31 - 46 参照) このように、他の人が何を必要としているのかを見極め、適切な援助の手を差し伸べることが大切なのです。あくまでも、大きな親切、小さなお世話にならないように、気をつけなければなりません。自分中心にしか物事を考えることができないならば、人の必要に気づくこともできないし、人を愛することも困難となります。このような人は、自分に囚われている人です。自分の中にある何か、多くの場合心の傷となっているようなものが引っかかっているのです。それらが癒されていくことによって、人を愛していくことができます。イエス様は、聖書の中で、何にも囚われないようにとお願いしています。そして、どんな人間でも、特に重荷を負っている人にご自分のもとに来るようにとおっしゃっています。ご自分のもとに来た人をイエス様は、暖かく迎え、癒し、受け入れて下さいます。(マタイ 11.28 - 30 参照) 一人でも多くの方が、何ものにも囚われないで、ただ神様だけを見つめ、神様の愛を全身全霊を持って証ししていくこと、それが「神の国」の完成への近道となっていくのです。

## ②神との和解(罪の贖い)

イエス様は、アダムによって引き起こされた罪による神様との絶縁関係を修復するために来られました。別の言い方をすれば、罪の贖いのために来られたのです。わたしたち人間と神様が和解するためには、大きな犠牲が必要となります。そのいけにえとして神様は、ご自分のひとり子をこの世に送り、いけにえとされたのです。ですから、御子であるイエス・キリスト様は、ご自分からすすんで十字架にかかり、全人類の罪の贖いとなられたのです。この贖いは、歴史において一回限りのものであって、もう二度と実際にイエス・キリス

---

(1)中島 その枝著 「イエス・キリストと出会い、彼の弟子、彼の友となる」 1998.9.8  
第五版 p24 参照

ト様が十字架にかかることはありません。もし、もう一度かかることになれば、それは不完全な贖いと言うことになります。しかし、神様が行くことに不完全なことは何一つ、ありません。また、人間の都合によって、ご計画を変更なさったりすることはありません。この御子の十字架上の死による和解は、わたしたち人間の方から求めたものではなく、神様からの一方的な呼び掛けによる、救いの到来なのです。神様ご自身の命をかけてまでもわたしたちと和解し、救おうとなさる究極的な愛の表現なのです。この神様のすばらしい愛によって、わたしたちは、罪の束縛から解放されたのです。

また、神様は、イエス様を復活なさいました。復活することによって、罪の結果である「死」をも打ち破ります。もし、復活しなかったならば、神様との和解を果たすことはできたかも知れませんが、わたしたちが信じている「体の復活」や「永遠の生命」は虚しいものになります。神様にできないことが、わたしたちに起こるはずがないからです。しかし、キリスト様が復活なさることによって、わたしたちは、たとえ死んでも「永遠の生命」によって生き続け、いつの日にかまた今まとっているような肉体を持って復活することを信じ、希望することができるのです。この信仰は、とても重要なことでしょう。死んだらそれでおしまいとなるのではなく、その後も生き続けるようになるのです。ということは、今までになくなった人たちともいつかは、再会できるという希望を持つこともできます。そして、永遠の生命を得ると言うことは、神様と同じになることであり、神様が最後まで残しておいた賜物なのです。アダムとエバは善悪を見極める能力を得ることはできましたが、生命の木になっている実は食べなかつたので、永遠の生命を手に入れることはできませんでした。(創世記 3.22 参照) もし、手に入れていたならもっと人間は墮落し、好き勝手にやっていたことでしょう。神様には、それが分かっていたので、人間が成熟し、完成された人間となったときに永遠の生命を与えようとなさったのです。キリスト様がこの世に来ることによって永遠の生命を手に入れることができるようになったのです。始まったのです。そして、幽霊のような霊的な存在としてではなく、今と同じような肉体（ただし、朽ちることのない肉体）を持って復活することが可能となったのです。

御子の到来によって、この世の中に「神の国」が到来しました。しかし、未だに完成されていません。「神の国」が完成しているのなら、もっと互いのことを気遣い、本当の平等、本当の平和が訪れていることでしょう。「神の国」が完成するのは、キリスト様が再びこの世に来られるとき（再臨の時）です。それまでの間、わたしたちは聖霊に導かれながら、「神の国」の完成のために働き、歩み続けるのです。

<聖書の引用は、新共同訳聖書1997年版を使用しました。>

僕が各々の孤独について寸見を述べてから、きみは神秘について語った。僕の曾ての病気について語ったと思うのだが、きみの立場にも当て嵌まると僕は思った。うまく説明できないのだが、いまのきみの在り方そのものが、きみの真実を証していると思う。きみにもシュトルム・ウント・ドランク時代があったということだ。そうだろうな。そういう時代を経て、謂わば神に出会うのだから。



## X I

一九九八年一月一日

新年を寿ぐ最初の手紙だ。かつて僕は「沈黙によって生きる言葉がある」と書いた。生徒たちと騒がしい言葉で話していても、僕は僕の内部に頑ななように黙っている部分を感じた。言葉は表層を流れていくが、その底には沈黙がひろがっているのだ。「教えようとしなさい」とか「沈黙」とか「隠れる」とか、これらはみな何かがそのことによって生きるのだ。あらたしき年の初めの初春のけふ降る雪のいや重け吉事——



## 新しい千年期に向かって

私は来るべき千年期に対して、何か一つのビジョンを持っているわけではありません。予言者ではありませんから、ヴィジョンは持てません。

でも、心の中にたくさんの大きな希望を抱えています。それは、多くの人々に役立つようにと、聖霊が私の心に注いでくださったカリスマから来る希望にほかなりません。このカリスマの実りが、フォコラーレ運動のうちに、これほど広く、普遍的な形で、また力強く実現しているのを見る時、私はこれからの時代に対して、楽観的にならずにはいられないのです。

実際、今日の教会の中で、聖霊がどれほど私たちをはじめ、ほかのたくさんの精神的、社会的「事業」に関与し、働られたかを見る時、私は、聖霊がこれからも常に、その大きな御心と寛大さをもって働いてくださるだろう、という希望を持たずにはられません。

これは、今後、聖霊の愛から生まれてくる新しいみ業について言えるだけでなく、私たちの運動のように、すでに存在しているみ業の発展についても言えることでしょう。

まず、私たちの教会に目を向けてみるなら、私はそこに、キリストの花嫁である教会にいつそうふさわしい雰囲気生まれてくることを夢見ています。それは世界に対して、教会がより美しく、より一つで、より聖なる、よりカリスマ的な、そして、教会の模範であるマリアによりふさわしい姿をとるためです。言い換えれば、よりマリア的で、ダイナミックな、家庭的で親密な、そして花婿キリストによく似た姿の教会になるためです。私は教会が人々にとって、灯台のような存在となり、教会の中に今まで目にしたことのないような、民の成聖が実現することを夢見しています。

また今日、すでに数百万の人々の心に芽生えてきていることですが、兄弟愛に生きる人々の輪が、この地上にますます広がり、二千年期には、それがごく普通の、普遍的な現実となることを、私は夢見しています。

そして戦争や争い、飢餓、無数の悪が、この世界から消え去ることが私の夢です。

さらに、諸々の教会の間で、いつそう愛の対話が深まり、教会が一つになることを身近に感じることのできる日を、私は夢見しています。

また、さまざまな宗教の人々が、相互の愛と、あらゆる聖典の中に見出せる「黄金律」によって結ばれ、より生き生きとした、活発な対話が深められていくことを、私は夢見ています。

世界中のさまざまな文化が互いに近づき、豊かにされていくことを、そして、各々の民族が真の宝として携えてきた種々の価値観が前面に押し出され、人類が共有する知恵となって、一つの世界的な文化が生まれてくることを、私は夢見ています。

聖霊が絶えず教会に押し寄せ、また教会の域を越えて、「み言葉の種」に力を注ぎ、世界が、絶えず新しい光と、命、また神だけが起こすことのできるみ業で満たされていくことを夢見ています。ますます多くの人が正しい道に近づき、造り主のもとに集い、魂と心をその奉仕に捧げるようになるためです。そして、個人と個人の間だけでなく、グループとグループ、諸々の運動、修道会、信徒団体の間に、また民と民、国と国の間に福音的關係が生まれ、自分の国と同じように他の国を愛することが、ごく自然なこととなる日を夢見ています。そこには、自ずと世界的な富の共有が生まれ、少なくとも人々はそれを目指して進んでいくことでしょう。順次交代する唯一の権威のもとに、多様な人々が一つになる世界を、私は夢見ています。ですから、新しい天と新しい地が、すでに前触れとしてこの地上で実現することを夢見ているのです。多くのことを夢見っていますが、この千年期は、私たちがそれらの実現を目にするためにあるのです。

キアラ・ルービック



フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

# 諸所の企画についてのご紹介

## I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

講 師：伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時～午後5時半。+ミサ (日曜ミサ) 講話、祈り、お茶&質問

申し込み：電話(18:00-21:30) 又はFax(03)3594-2254。はがきで \*参加費:200円

## II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

## III 風 の 家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

## IV 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指導：フランコ神父 ・ 園田善昭神父

(1)8月7日(月) - 8月15日(火) (2)8月17日(木) - 8月25日(金)

開始 17:00時 終了 朝食後

研修会 座禅と聖体礼拝 3月31日(金) - 4月2日(日)

茶道とミサ 4月7日(金) - 4月9日(日)

諸宗教対話活動 仏教者との交流

2月11日(金)・4月29日(土)・6月25日(日)

21世紀に向けて第4回宗教者平和の祈りの集会

\*日時：10月8日 午後 \*場所 生命山カトリック別院

祈りの集い 年間テーマ「私を見た者は父を見たのである」

(10:00 ~15:00)

1/13.2/10.3/9.4/13.5/11.6/8.7/13.9/14.10/12.11/9.12/14(木)

\*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申し込みは生命山別院へ

## V 瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師 (神言会) \*詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735



VI リーゼンフーバー神父による研究会 (1999～2000年)

- ①キリスト教入門講座 日時：金曜日 18:45～20:30  
場所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
対象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方どなたでも。予備知識は必要ありません。
2000. 1/7 霊の動きー福音による生き方  
1/14 聖書と教会ー信仰の基盤になる言葉  
1/21 秘跡と教会生活ー毎日を養う信仰  
1/28 神の言葉ー神との日常的な対話と黙想のしかた  
2/4 結婚と独身ー愛の道  
2/18 信徒、司祭、修道者ー誰でも召されている  
2/25 仕事という人間の課題ー社会に寄与して働く
- ②神学読書会 日時：毎月第2・第4(第5)水曜日 18:30～20:30  
場所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加  
対象：キリスト教の基本的知識を持っている20代～30代の方。
- ③聖書研究会\* 日時：毎月第1・第3水曜日 18:30～20:00  
場所：S.J.ハウス第5会議室  
内容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。  
\*日時：木曜日 12:40～13:25  
場所：上智大学7号館 316号研究室  
内容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- ④坐禅会 日時：月曜日 17:20～20:10 木曜日 18:00～20:30  
場所：クルトゥムハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。  
どなたでも。遅刻、不定期参加も可。
- 接心 2000/2月26日(土)8:30～27日(日)16:00 上石神井黙想の家 5600円  
連絡先：④シスター朝山 TEL.0727-59-3742
- ⑤ミサ：水曜日 17:10～18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂
- ⑥黙想：水曜日 18:00～18:30 場所：(同上)  
(ミサ、黙想、共に(8月を除く))
- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場所：S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
2000年1月8日、2月19日、3月4日
- 8 アガペ会：説明会と集い・右記の 13時30～ .1/22. (20代～40代の信者)  
以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス  
直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX,03-3238-5056

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：女性信徒

2000, 2月26日（土）5:30P.M.～2月27日（日）4:00P.M.

6月24日（土） “ 6月25日 “

10月28日（土） “ 10月29日 “

2001, 2月24日（土） “ 2月25日 “

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年信徒

2000, 2月11日（金）10:00A.M.～5:00P.M.

4月29日（土） “

7月20日（木） “

10月 8日（日） “

2001, 2月11日（日） “

黙想会：2000, 5月30日（火）10:00A.M.～4:00P.M. \*対象：信徒のための一日黙想

指導：星野正道師（カルメル会）

大聖年・聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ

\*対象：信徒

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊との交わり

一秘跡を通してー 毎月最終木曜日 2:00P.M.～3:00P.M. \*7.8.12月除いて

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方）毎月木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職の集い

\*対象：信徒

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日(2:00P.M.～3:30P.M.)

第二グループ 毎月第1木曜日(2:00P.M.～3:00P.M.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30PM～2:00PM)

Ⅷ マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TLE.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

①聖書深読黙想会ー ー主日の福音を中心にー

隔月・日曜日 10:00A.M.～5:00P.M.

②黙想と祈りの集い テゼの歌をうたいながら

③霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会） 毎月第3土曜日 6:00～8:00P.M

II. ①聖書会 …詩編を読む… 毎月第1月曜日 10:00～12:00.A.M

②聖通読講座 木曜日 6:30～8:30P.M

## IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

## X. カトリック内観研究会

代 表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内  
TEL&FAX 03-3862-8876

\*予約相談は、まずはファックス・手紙でご連絡ください。\*予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。

予定表	2000.1/9 ~1/15	茅ヶ崎	4/9 ~4/15	茅ヶ崎
	1/24~1/29	関西・精華町	5/1 ~5/6	関西・精華町
	1/31~2/5	戸塚・聖母の園	5/15~5/20	戸塚・聖母園
	2/13~2/19	茅ヶ崎	6/5 ~6/10	関西会場A
	2/27~3/4	名古屋か・茅ヶ崎	6/19~6/24	茅ヶ崎
	3/12~3/18	茅ヶ崎	7/10~7/15	戸塚・聖母園
	3/19 ~3/24	沖縄	7/24~7/29	関西会場A
	3/27~4/1	関西・精華町	8/7 ~8/12	戸塚・聖母園
			8/22~8/26	関西会場A

## 公開講座 イエスと日本人 -キリスト教の文化内開花の問題-

場 所：新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（受付は4階）

朝日新聞の～化活動 朝日カルチャーセンター

〒163-0204新宿区西新宿 2-6-1 TEL:03-3344-1941 私書箱22号

TEL:03-3344-1945

日 時：1 / 1 2 . 2 / 7 . 2 / 2 1 . 3 / 6 全4回

受講料：会員 10,000 一般 11,200

## XI. コングレガシオン・ド・ノートルダム

係・山本 三千子

神の呼び掛けに耳を傾けてみませんか

TEL(昼間0424-82-8056)

テーマ：修道召命を考える

(夜間0424-82-2012)

日 時：平成12年2月11日（金）16時から～13日（日）16時まで

対 象：20代～30代独身の女性信徒

指 導：マヌエル・ディアス神父様（イエズス会）

参加費：4,000円（宿泊費、食事、等）

申込み：2月8日（火）まで…下記へ

場 所：〒182-0034 東京都調布市下石原3-55

TEL(0424-82-2012)

コングレガシオン・ド・ノートルダム

FAX(0424-82-2163)

京王線調布駅南口より徒歩15分

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線 : 「<sup>かみのげ</sup>上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「<sup>ろくじぞう</sup>六地蔵駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地蔵の町並バス停より<sup>おくらやま</sup>御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って<sup>あかつき</sup>明碓橋を右折

男子跣足カルメル修道会

# 聖書に親しむ

— 日本人の心で読む —

聖書には様々な読み方があり、理解のしかたも人それぞれです。その聖書の心に触れ、学び、理解を深めていくことを目的としている深読法とは何か。通信講座でご指導いただいている、カルメル会司祭の奥村一郎神父が深読法についてお話しします。聖書に興味をお持ちの方や聖書を今までに読んでことがない方でもご参加いただけます。 (定員80名)

▼講師 カルメル会司祭 奥村 一郎

▼日時 2000年3月13日(月) 午後1時～3時

▼場所 新宿住友ビル43階 朝日カルチャーセンター (裏面参照)

▼受講料 3,300円(税込)

▼当日持参 筆記用具、郵便振替の受領証

【申込方法】 まずお電話でご予約ください。(☎03-3344-2527)。予約番号をお伝えします。郵便局備え付けの振替用紙をご利用のうえ、次の要領で受講料をご送金ください。

◆口座番号は00150-6-87041

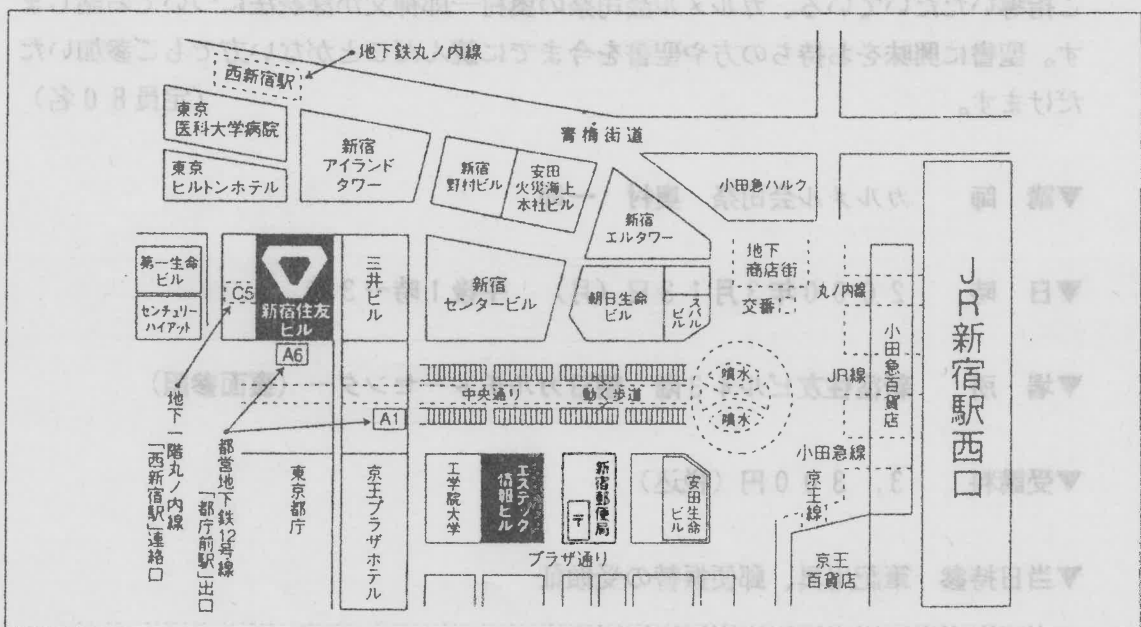
◆加入者名は朝日カルチャーセンター

◆通信欄に講座名(聖書に親しむスクーリング)と予約番号

◆払込欄にご住所、氏名とフリガナ、電話番号を記入。郵便局の受領証を受講票に代えますので、当日ご持参ください。尚、ご送金後から当日まで特別の変更がない限り、朝日カルチャーセンターから連絡を差し上げません。

講師略歴 おくむら・いちろう カトリック司祭（カルメル会）。東京大学在学中、禅仏教より改宗。卒業後にカルメル会入会のため渡仏。帰国後、主に諸宗教との対話とその交流に関与する。著書に『祈り』『友の祈り』『断想』（女子パウロ会）、『愛ゆえに生く』（中央出版）、『聖書深読法の生いたち』（オリエンズ宗教研究所）。訳書に『カルメル山登峰』（ドン・ボスコ社）など。

▼申込締め切り 電話予約は先着順でお受けします。定員になり次第、締め切らせていただきます。



お問い合わせは朝日カルチャーセンター・通信講座部へ

☎03-3344-2527

## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

---

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

---

## あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

1000

1000